

Episode2

サル、類人猿、人類…

化石から迫る初期人類



エジプトピテクス *Aegyptopithecus*

学名は「エジプトのサル」という意味。初期の狭鼻猿類。ここから枝分かれし、ニホンザルのような「旧世界ザル」と「類人猿」が登場する。

プロコンスル *Proconsul*

20世紀初頭に飼育されていたチンパンジーの名前に由来し、学名は「チンパンジーの前」というような意味合いになる。



サルと人類の共通祖先

約3400万年前になると、「サルの仲間」と「人類・類人猿の仲間」の共通祖先が現れました。エジプトから化石が発見されている「エジプトピテクス」です。樹上で暮らす体重7kgほどの長い四肢と尾を持つ、サルに似た姿の動物です。そして、この動物の仲間からやがて、サルの仲間たちが人類・類人猿と分かれて進化したと考えられています。

サルの仲間と分かれた後、1000万年ほどで、人類も含めた類人猿の祖先が現れました。その1つが「プロコンスル」です。ウガンダやケニアの約2300万年前の地層から、体重約20～50kgの複数の化石が発見されています。現在のチンパ

ンジーやゴリラなどと同じく、尾がないのが特徴です。

最古の人類とは？

人類と類人猿が分かれたのは、約700万年前と考えられています。アフリカの中央部にあるチャドから、これまでに知られている限り最も古い人類の化石が発見されているからです。

2001年に発見された、この「最古の人類」を「サヘラントロプス (*Sahelanthropus*)」といいます。ただし、化石が見つかったのは、ほぼ完全な頭骨の他は、数点の下顎骨片と歯が数本と部分的なものばかりで、一体どんな姿をした人類だったのか、その全身像は謎に包まれています。

類人猿と人類はどう違う？

類人猿は、人類にとって最も身近な“親戚”だが、その最大の違いは「歩き方」。アフリカの類人猿は地上を歩くと、「ナックル・ウォーク」といって、指を三つ折りにした真ん中の背側をつけて歩く。一方、人類は背筋をのびし、2本の足だけで体を支えている。人類のこの歩き方は「直立二足歩行」と呼ばれる。

ヒトにとって最も近い類人猿、チンパンジー。



ナックル・ウォークの手

…枝分かれば続く! の誕生

エチオピア国立博物館蔵/
Photo : © T. White 2009

手のひらは頑丈で、手首はよく動く。サルのように木登りをするのは得意だったとみられている。

Point
手



Point
足

親指が横に広がっており、枝などをつかむことができた。これは、樹上生活をおくる上で大切なポイント。ただし、この足は地上を二足歩行することもできたようだ。

初期人類の“代表選手”

Ardi

アルディピテクス・ラミダス

Ardipithecus ramidus

その化石は、1990年代にエチオピアのアワシユ渓谷で発見された。学名の頭の部分をとって「アルディ」と呼ばれている。身長 120cm、体重 45kg ほどの森林で暮らす女性だった。

イラスト/菊谷詩子

化石が教えてくれる人類のヒミツ1

アルディピテクス・ラミダス

初期人類の中で、その姿がよくわかってるのは、エチオピアで発見された「アルディピテクス・ラミダス」です。

その化石の年代は 440 万年前と考えられています。たくさんの化石が発見されており、中でも「ア

ルディ」という愛称がつけられた化石は、全身の多くが残っていました。アルディの研究などから、アルディピテクスは樹上で暮らすことも、地上を直立二足歩行で移動することもできたとも考えられています。

がっしりとした顎には、大きな歯が並ぶ。樹上の果実だけではなく、草原の植物の塊茎などを食べることができたとみられている。

Point
顎



Point
骨盤

骨盤の形は、アルディなどと比べると、私たち現生人類に似ている。このことから、直立二足歩行ができたことがわかる。

Point
足

ルーシーの骨だけではわからないが、「土踏まず」があることが明らかになっている。アルディなどと比べて親指は開いていない。これらは、私たち現生人類に近い特徴といえる。

アウストラロ ピテクス・ アフレンシス

*Australopithecus
afarensis*

その化石は、1970年代にエチオピアのアファールで発見された。発掘現場で流れていたビートルズの曲から「ルーシー」という愛称がつけられている。身長105cm、体重30kg程度の女の子だった。

イラスト／菊谷詩子

もっと“ヒト”らしくなった

Lucy

化石が教えてくれる人類のヒミツ2

アウストラロピテクス・アフレンシス

370万年前～300万年前になると、タンザニア、エチオピア、ケニアなどに「アウストラロピテクス・アフレンシス」という人類が現れました。

各地で見つかるこの人類の化石の中では、エチオピアで発見された「ルーシー」という全身の化石が最もよく研究されています。アウストラロピテクス・

アフレンシスは、二足歩行することに適した骨格で、その姿はアルディと比べるとずいぶん現在の私たちに近いものです。また、がっしりとした頬骨や顎などをっており、硬いものも食べることができるようになっていました。